

## リトル・プリンセス 母の手記2

※この文書は、以下のサイトより引用し、改行等を手直したものです  
[http://www.geocities.co.jp/MusicStar/5988/aiwo/aiwo\\_4.htm](http://www.geocities.co.jp/MusicStar/5988/aiwo/aiwo_4.htm)

もう一度娘の死を見つめて

いま、真赤な太陽が西の空に沈もうとしている。辺りが淡い朱色に染まり、しだいに茜色になり美しい情感を漂わせ、やがて紫色の雲が覆い、夜の帳が降りてくる。

そんな情景を、あなたは何度眺めたことだろうか。十八才という、短い五分の一世紀にも満たない生涯を閉じた佳代。

自分の信念を貫き通し、死という厳粛なまでの儀式を自分で行ってしまったあなた。

大人以上の集中力と、園児のようにおおらかで間の抜けた所を持ち合わせたあなたを、東京という大都会の中で一人にし、付き添ってやらなくて見守っていただけの私を、あなたは許してくれるだろうか。

あなたを慕って多くの若人の命が亡くなった。その方達の三回忌もやってきた。若き御霊よ、安らかなれと祈る。

本堂で熱きファンの眼差しを  
背に受け祈る三回忌供養

あなたの墓が建てられ、多くの方達が北は北海道から、南は九州・沖縄からもお参りに来てくださる。あなたの墓前は、いつ行っても花でいっぱいよ。綺麗に掃除してくださり、花瓶やローソク・マッチ・線香も置いて、どなたでもお参りできるようになってるわ。

数多き花に埋もれ吾子眠る  
墓前に参る背に視線受けて

「佳代さんの分まで長生きし、目標に向かって頑張って生きていきます」  
「佳代さんの住んでいた名古屋へ行きたい。少しでも近づきたい。名古屋の大学へ行くように頑張ってます」  
と、多くの方達から手紙をいただくの。

お母さんも励ましてくださるのよ。  
「お母さん、遊びに来てください。案内しますから・・・」  
「・・・。四十円や、六十円でお母さんを励ますなんて、安いものですから・・・」って。

あなたが、芸能界で真剣に生き、あなたの根性を見習わせてもらい、支えにさせていただいたからですって。

ファンの方達が、あなたの追悼コンサートや、慰霊セレモニーなど開いてくださっているわ。

皆さん、忙しいのにご自分の手で会場を借りたり、会の運営を進めたりして。ありがたいわね。

出版社の方から、あなたの日記と絵を一冊の本として出したいとの依頼があった。

以前、月刊誌にあなたの日記が掲載されたとき、  
「娘の日記を載せるなんて、お母さんは冷たすぎる」  
「折角忘れようとしているのに・・・」  
と、非難を浴びた。

また非難を受け、冷酷な母と思われるかもしれないが、あなたが芸能界で真剣に生き、悩み、苦しみ頑張ってきた青春時代の記録、青春の墓標として残してやりたい。

日記の中で扱われているあなたは、個人的な、特定の人ではないだろう。その証拠に、東京へ行って直ぐ、あなたが登場し、電話のベルが鳴ると書いているからでもある。

あなたは、佳代が接してきた人達の理想像、もしくは頭の中で考えた恋人かもしれない。また、絵は幼稚園の時から中学校までの拙いものであるが、一人の人間の成長課程の一環として見ていただければ幸いである。

三回忌近くに成満寺の一角に設けられた祭壇の位牌や、ぬいぐるみ、ノート七冊など三十点程、無くなるという事件があった。

祭壇が取り除かれ、墓前の方へと、本堂のガラス戸に張り紙がしてあった。ノートに記されたファンの方達のあなたへの想い、住所、氏名で仲間になった人達が多いと聞いたわ。位牌は、ファンの方達の熱意で、また成満寺で立派なものを作っていたのだ。

でもノートは、ファンの方達の心の拠り所だから、そっと返して欲しいわね。

墓碑に刻まれた白い文字に、あなたの心情を思いやる時、芸能界という世界のいかに厳しく寂しいものだったかを理解してやれなかった自分が疎んぜられる。

精いっぱい生き、疲れきったあなたを少しでも和らげることができなかったお母さんを許して。

ただ数珠だけしか持っていないが、あなたの棺に何も入れてやれず、マネージャーがぬいぐるみ、『禁じられたマリコ』で一緒だった方達が台本を入れてくださったのが、せめてもの救いだっただ。

あなたの絵筆、入れてあげられなかったけど、お母さんが使ってるわ。自己流だけど、和紙のちぎり絵を作ってるの。

あなたの筆で、和紙に水をつけ手でちぎって色紙に貼るの。花やお話の絵、風景など。今度、平安時代の貴婦人の姿を貼ろうと思ってるの。見ててね。

まだ目を瞑ると、あなたの幼い頃の姿が次から次へと浮かんでくる。

二才頃、あなたとよくトランプの神経衰弱をやり、こちらが本気で取り組まなければ負けてしまう程、強かった。

また、リカちゃん人形の服を自分で着せようとして、ホックがなかなかはめられず、眠くなってうつらうつらとしながらも、まだ挑戦していたあなた。

特別字を教えた訳でもないのに、知らない間に覚えていて、入園テストの待ち時間に棚から本を出して大きな声で読んで、佳奈ちゃんのお母さんに「もうそんなに読めるの？」と、驚かれたこともあった。

うっすらと積った雪に大はしゃぎし、着替えもせず飛び出し、雪うさぎを作り大事そうに冷凍室に入れたこと。

高蔵公園で、バックネットにするすると登ってゆき、下からはらはらと心配させられたおてんば佳代。

幼稚園で覚えた「ドロップス」の歌や、YMCAの遠足やキャンプで覚えた「森の熊さん」などの歌を、可愛らしいしぐさで“昔、泣き虫神様が、朝焼け見て泣いて、夕焼け見て泣いた。真赤な涙がポロンポロン、黄色い涙がポロンポロン・・・”“ある日、森の中、熊さんに会った。花咲く森の道、熊さんに会った・・・”“パン屋のオヤジ、トゥラララ、金魚が好きで、トゥラララララ、大きな瓶に、トゥラララ、泳がせていた・・・”と、よく歌っていた。

テレビの横に絵日記を置き、決められた時間以上観る時は、絵と感想を書くことにしたら、喜んで何枚も絵を描いていたマンガ好きの佳代。

もうノートは無いけれど、今でもお母さんが覚えているのは、マリオネットの「シンデレラ」を見に行つて、二人の姉さんのことを憤慨して克明に書いてあったのが、印象に残っている。

居間のテーブルとソファを片付け、「ユーモレスク」や「小犬のワルツ」「白鳥の湖」などの曲をかけ、自分で振りをつけよく踊っていたわね。一メートル物差しをお母さんが持って、あなたが反つてその下をくぐるという、リンボーダンスまがいのこともよくやっていた。

また、ダンボールに本などを詰め座布団を置いて縛り、飛び箱の代りにして台上前転などをしてたよね。

狭い庭に平均台を置き、赤ちゃんの時の布団やマットレスの古いのを敷きバランスや前転、時には縄跳びなどもしていた。

壁際に座布団を敷き、三点倒立や倒立の練習などもよくしたわ。図書館から借りてきたゴッホの本に、ゴッホ描く七才の犬のスケッチに目を輝かせ、「すごい！ やっぱりゴッホは天才だ！」と、いつまでも眺めていたこと。

大人以上にしっかりしたことを言う反面、時々間の抜けたことを言うあなたに  
「あんたは、馬鹿か利口か分からないね」と言うと  
「わたしは、自分は利口だと思うよ。エジソン見てみい。小さい頃、馬鹿扱いされたに。  
わたしだって、大物になるかもしれないよ」と、ぬけぬけと言う図図しさには、呆れ果てたものである。

小学校三年生の時、本を読んでいてなかなか寝ないあなたに  
「早く寝ないと、学校に遅れるよ」  
と、言うと  
「どうして人間は寝ないといけないんだろう。こんなに本があるのに寝るのが勿体ない」  
と、まるで哲学者みたいなことを言うあなたに驚かされたものだった。

その頃のあなた『小公女』とか『路傍の石』『次郎物語』など、結構難しいのを読んでいたわね。  
成長するに従ってマンガに転化したように思うけど・・・。

また、お話もよく書いていた。でも、お母さんがもう少し気遣ってあげればよかったのに  
「あらすじばかりだから・・・」  
と、言ってあなたの創作意欲を無くしてしまっていて、本当に悪かった。ごめんなさいね。

折角あなたが書いたお話、投稿しようとしていたのに、もっと温かく見守ってあげるべきだった。

その頃かしら、文字絵遊び、例えば「あ」とか「を」とかから絵にするとか、めちゃくちゃな線の  
一筆描きから絵にするのも、あなたは苦勞することもなくこなしてしまった。

大高緑地公園や青少年公園の芝生で、よくバトミントンをしたり、縄跳びをしたり、前方回転や側  
転、前方ブリッジ、後方ブリッジ、逆立ちで歩いて見せ、得意そうな顔をしていたわ。

四年生になってコーラス部に入り、  
「水口先生って素敵だよ。高音もいいし、低音もきれいだよ」  
と、よく話し懂れていたわね。

その年は高蔵小学校が熱田区の小学校の代表校になり公会堂で「チコタン」を歌うことになり  
“どうして死んでもたんやチコタン、ぼく好きやったんやのに・・・”  
と、涙ぐんで歌ってた佳代。

写生大会で、木々の緑や、神社の屋根、石段の描き方、お城の量感、雲の色などに気遣って、時間切り切りまで食事もとらず頑張っていた佳代。

霞が原親子で行きし思い出の  
品飾りつつ涙するひとり

絵の展覧会で、本物のようなレースの衿、真珠のネックレスの光沢に目を輝かせ、また絵の中に吸い込まれそうな深い森の中の道に感動していたあなた。

六年生の学芸会で音楽劇『浦島太郎』をやることになり、  
「乙姫様をやれる！」  
と、喜んで帰ってきて、その頃放映されていた『ベルサイユのバラ』のマリーアントワネットの話し方や、歩き方を研究していた佳代。

そんな表情の一つ一つが、まだ私の頭の中に描かれる。

中学生になって、弁当を持っていくようになり  
「お母さんはセンスがない。ここに赤い苺がいる」  
と、言う娘に  
「赤が要るなら、紅しょうがかケチャップでも入れていけばいいでしょう。別にお昼に持っていかなくても、ビタミンCは一日の中にとればいいから」  
と、いった類の毎日のような親子喧嘩も、もう今では懐しい思い出の一つである。

一緒によく歌も唄ったわね。何という題名だったかしら、確かペギー葉山さんが唄ってらしたと思うけど  
“或る晴れた昼下がり、市場へ続く道、荷馬車がコトコト子牛を乗せて行く・・・”  
お母さんが「平城山」を  
“人恋うは、悲しきものと、平城山に・・・”  
と高音が出なくなっているのに無理に歌うと、  
「もう止めて！お母さんは『帰れソレントへ』ぐらいが一番合っているから・・・」  
と、あなたは言ってくれた。

また、中学では先生方が小学校と違って、「○○さん」「××くん」ではなく「おまえ」「おまえら」と言われるので、学校へ行って名前を呼ぶように言って欲しいと娘に頼まれPTAの集会で言って注目を浴びたことがあった。

気位の高さは人並以上だったのよね。

中学二年生の夏休みの宿題の一つに、英語の物語を何か一冊訳してくるのがあった。かなり難しい『シンデレラ』を、二学期が始まる直前になって訳し、絵を描かずに訳だけのノートと本を提出した。

二学期が始まって、泣き出しそうな顔で帰ってきた。自分でも自信があったのか、賞がもらえると思っていただけに納得がいけないのか、  
「お母さん、学校へ行って皆のを見てきて」

と、言うのを親馬鹿で職員室へ行き、担任の先生に話し作品展を見て廻った。絵が描いてある見だ目に良いのが入賞している。中には、最初のページから訳が間違っている不合理さに、先生も「何しろ数が多いですからね。しっかり見てないからでしょう」と、言われどうすることもできず、子供に不承不承納得させた。

よほど悔しかったのか、秋に行われる名古屋市立中学校の英語暗唱コンクールに、クラス代表が一人ずつ選ばれ、順番にテープを借り、熱のあるのもかまわず『大熊座』の何ページかをテープ通りに何度も練習し、「学校代表になった！」と、喜んで帰ってきた負けず嫌いの佳代。

二年生時、高一時代に載っていたニコンのフレッシュギャルに準優勝し、三年生の夏休みに、グアム旅行に行かせていただき、家に帰ってから十七時間も眠るという太々しさ。何度、死んでるのではないかと確かめにいったことだろう。

そんな子供が、芸能界の平均睡眠三、四時間という厳しい条件の中で、よく耐えたと思うと目頭が熱くなる。

中学校三年生の時の担任の先生が「英語だけは、しっかりやれよ。英語は、耳から聞く学問だからな。例え、芸能界で売れなくても、英語ができれば何とかなる。自分で返せない金は、絶対借りるな。質素にやれよ」と、言ってくださった言葉が、今でも鮮明に焼きついている。

そんな先生方、皆の心配もよそに順調に売ってくださったサンミュージック、キャニオンレコード、ファンの皆さん、ありがとう。

たくさんの賞もいただきました。念願のドラマ出演もさせていただきました。「今度スイスへ行けるよ。ルーブル美術館へも連れて行ってもらえるかも知れないよ」と、喜んで電話してきた佳代。

修学旅行から、今津秀雄さん撮影の北狐の可愛らしい絵ハガキで突然ですが・・・ お元気ですか  
今、私は修学旅行に来てます▼【原本ではハートマーク】  
然別湖のホテルに泊まっています  
霧がすごくて、景色がよく見えないけど  
B U T、とてもキレイですよ▼  
八日には帰っちゃうけど、そのまますぐにスイスに行っちゃいます  
全々 お休みがないし、名古屋にも帰れないから寂しいけど、元気でがんばってるから安心して下さい Bye - by  
と、毛蟹も航空便で送ってくれたよね。

スイスからも直ぐに美しい絵ハガキで

ボンジュール▼  
お元気ですか？  
とうとう やってきました  
憧れのスイス▼  
ちょっとお天気が良くないのが  
残念だけど 山も湖も すごく  
キレイなの、 お家も可愛いし  
牛の行進(?)も 見ちゃった▼  
ハイジになった気分かな  
帰ったらまたTELするネ  
Bye-by 佳代

小さい頃からハイジに憧れ、スイスの山々の風景に憧れの念を抱いていたあなた、あなたのスケッチブックには、描きかけのスイスの絵がある。可愛らしい家と風景画。

でも、それを完成させる前に、あなたは去って逝ってしまった。  
四月八日、釈迦尼仏誕生の日に。  
桜の花が満開で、ほんの短い花の命を惜しむかのように、精一杯咲いている時に、ひらひらと……。

佳代ちゃん、あなた東京へ行く時、  
「お母さん、何があっても挫けず、それを土台にして強く生きてゆく」  
と、言ったわね。

でも、多感な年齢のあなたにとって、それができないほど、寂しく辛いものだったのね。強い反面、弱さが諸に出てしまったわ。そんなあなたを、包みこんでやれなかったなんて、親失格よね。

あなたが亡くなってから、あなたが書いた本や雑誌、レコード、写真集を買い集め、お母さんに教えて下さった方があった。  
「……。いつまで続くのだろう。この生活……」  
「昔は夢がいっぱいあったのに、醒めてしまったのかしら……」

あなたの寂しさ、忍耐力ぎりぎりまで頑張っていたのに何の助けもしなくて、たった一人にしていたお母さんを許して。  
「歌手にならなくたって、画家でも作家にでもなれる可能性があったのに……。一生、佳代さんを描き続けていきます。……」って、もう何冊かあなたを描いておくってくださった。

墓碑に刻み込まれた白い文字も、その方が雑誌に載っていたのを教えてくださったの。  
<プライベートタイム>  
もしも ゆっくり休みがとれたら  
油絵を描きたい……  
それが 私の望むプライベートタイム  
ファストビデオで行った

スイスの山々を  
まっ白なキャンバスに描きたい・・・  
十月の人魚になった私は  
自分の部屋で  
眠る間も惜しんで 描くのです  
幼い頃  
どうしても画家になりたかった私  
いま 素顔の私に戻って  
キャンバスに色をほどこしていく時  
いいようのない安らぎを覚えるのです

病院に入っていて、あなたに心配ばかりかけ、何の手助けもしなく、死に追いやってしまったのは、誰のせいでもないお母さんね。

あなたが悩んでいたのに、見抜くことができず、東京へ帰してしまって、いまお母さんが書けるとしたら、あなたへの詫び状、懺悔録、それしかない。

あなたは速い勢いで、何もかもお母さんを追い越した。

昔のあなたでは、到底考えられない睡眠時間なのに  
「ファンの人達が応援してくれるから、歌手がやっっていける」  
と、言っていたそうね。

ひとりになって静かにあなたとの思い出を振り返ってみると、まだまだ私の頭にあなたのありし日のことが浮かぶ。

小学校一年生の時、車を作る宿題で遅い時間になって始めるあなたに、コンパスで丸を書いて手伝ったら、消してまた自分で描き直した頑固なあなた。

小学校六年生の時、読書感想文に『レ・ミゼラブル』を書いて、ジャンバルジャンがコゼットに寄せる愛と、自分の罪をまるで大人が書いたように書いていたあなた。

中学二年生の時、社会のテストで徳川慶喜と書くべき所を徳川喜慶と書き 98 点で、先生に  
「こんな難しい字を書いたから負けて」  
と、交渉しに行ったら、先生が黒板に“佐藤代佳”と書かれ  
「これ、どう言って読むの？」  
と、言われちゃった。  
と、家で話したチャッカリ屋の佳代。

中学三年生の国語の本に載っていた、木下順二作の『夕鶴』が好きで、あなたと一人何役かをし  
“おばさん、おばさん、遊んでけれ、おばさん、おばさん歌唄うてけれ・・・”

.....  
.....

“私の大事な与ひょう、あんたはどうしたの。あんたは、だんだん変わっていく……”

.....  
.....

“つう、つう……”

と、遊んだ声がまだ耳元です。

子供達になりきった、あなたの愛らしい声が、今でも私に覆いかぶさってくる。

あなたが、この世に生を受け、一番充実した一番思い出に残るのは、一体いつだったのだろうか。

東京へ行ってからのあなた、お母さんを困らせることなく優等生になりすぎた。速いステップで階段を登りつめていった。

あなたが亡くなって、中学一年生に書いた詩を、どなたかが出され、服部音楽研究所の先生が作曲してくださった。

#### 小 鳥

青空を飛びまわっている小鳥たち  
自由に幸せそうで  
空に吸いこまれそうに飛んでいる  
緑の木にとまって  
大きな声でチュンと鳴くのは  
仲間とのオシャベリ？  
かごの鳥よりも危険がいっぱい  
でもそれは自由とのひきかえ  
あなたたちは小さな小さな冒険者  
だから 晴れた空がお似合い  
自然にはばたいている姿が  
一番自然

あなたの日記の中や、写真集の中の詩も作曲してくださった。作詞家、岡田有希子として。

中学一年生の頃よね。青いインコの雛を買ってきて箱に柔らかい布か綿だったかを敷き、ハッピーと名付け、『小鳥の飼い方』という本も買って、毎日スプーンで餌をやり、手乗りインコに育てていた。

羽根がはえて飛べるようになり、一度籠から出した時、飛んでいってしまい、もう駄目かと思ったら家の付近を飛んで、前の家の庇に止まった時は喜んで捕まえにいったわね。

でもハッピー、羽根が抜ける病気になり、だんだん小さくなって歩くことしかできなくなった。

カーテンに登るのが好きで、チョコチョコ登って家の中を歩いたり、庭の草などを啄んでいた。

そんなハッピーを肩に乗せ、美術の宿題の模写、「ルノワール」のロレーヌ・ラコー嬢を選び描いていたわね。

中学二年生がモナリザの鉛筆での模写と河合奈保子さんの人物描写。

確か、ポスターか何かを見て描き、バックの色に頭を悩ませ、一番厚く塗ったのが、それが最初。

奈保子さんを、よく知らなければ描けないといって、あなたの部屋の壁は奈保子さんでいっぱいだった。

三年生の時にも「ルノワール」の模写、題名は忘れたけど、確か二人の娘さんがいて、一人がピアノを弾き、もう一人が傍にいる絵でもそれは完成させずに描きかけね。

三年生のあなた、夏休みはほとんど出歩いて、オーディションを受けに行ったり、グアム旅行や、二コンの中・高生の為のカメラ教室が大阪城であり、モデルになって行ったりしてた。

せりふはなかったけど、「中学生日記」に出たりしてたわ。のんびり屋のあなたが、忙しい日々を送った最初。

数学の宿題など、夏休みが終わってもしてなくて、成績が落ちたのが、夏休み終了後にあったテストね。それまでのあなた、十番内には入っていたわ。

でも本などは、お母さんの「芥川龍之介全集」から『河童』や『くもの糸』など出して朗読したり、川端康成の『伊豆の踊り子』など読んでいたわね。

中日新聞の社説を読むことにさせたら、あなた声を出して読んでいた。

通信販売で買った銀色の痩せる為のスエットスーツを着て・・・。

カスタネットのような贅肉を取る器具を使ったり、二重瞼にする器具を買って、勉強をしながら痩せようとしていたわ。

高校へ入ってからのあなた、人が変わったみたいに明るくなって、恵ちゃんや直美ちゃん普子ちゃん達と友達になり、あなたが過ぎてきた学生生活で一番楽しかった時期ではなかったのかしら。

一学期という短かい期間だったけど、一番充実した日が過ごせて。

あなたが、東京へ行ってからのお母さん、本当に魂が抜けたみたいで、何も手がつかなかった。

あなたが、一人で頑張っているというのに。気が弱くなって、自分を投げ出しても子供の成長を願うのが母親だとしたら、お母さんは失格ね。

何かの本だったかで読んだことがある。野口秀世のお母さん、金釘流の文字で早く帰って来るように願って、一生懸命書いた手紙、今でも覚えているわ。

九月三十日に開かれた東京でのファーストコンサート、午前中頭が痛くて戻したりしていたけど、あなたに会って顔を見た途端、安心してよく寝れた。

あなた『瞳はひみつ色』の中で書いていたわね。折角、お母さんに会って一ぱい話があったのに、直ぐ寝てしまったと・・・・・・・・。

写真集も、たくさん出していただいた。全部で四冊かしらね。

三冊目に出していただいた武藤さん撮影の写真集、あなたが、服装・表情に合わせて書いている詩があったわね。

あなたが、最も輝いている頃の作品。

夕日が海に溶ける頃  
すべてのものがセピア色に  
包まれていく  
あなたとの思い出も  
古い写真のように  
色あせてゆくような・・・・・・・・  
そんな気がして  
ひとり来た海  
忘れられないあなたへの想い  
捨ててしまいたいから  
波うち際に  
“すき”と書いた  
波がさらっていくように  
この気持ちもいつか  
流されていくでしょうか

構成もあなたがさせていただき、自由に伸び伸びさせていただいた。

デビュー時の写真もジャケットも、武藤さんで奥さんが、スタイリストさん。安心しきった自由な、あなたが写っているわ。

ちっちゃな可愛い女の子  
絵本を閉じて叫んだの  
「あたし、王子様を探しに行ってくる！」  
待ってるだけじゃ つまんない  
だから森の中を どんどん どんどん  
歩いて行ったけど、いつまでたっても  
出会えない・・・  
通ったのは、お唄の上手な小鳥さん

それからピョンピョン野うさぎさん  
日が暮れて、気付いた時には  
迷子になっちゃった  
不安になって泣き出して  
泣き疲れて眠った女の子を  
探しに来てくれたのは  
やっぱりママ・・・  
「もう少し、大人になったらね」  
耳もとでやさしくささやいて  
お気に入りのパディントンと一緒に  
ふかふかベッドに寝かせてくれた  
すやすや眠る女の子  
いつか素敵なレディに変ったら  
きっと王子様、見つかるヨ▼  
今はどんな夢、見てるのかな・・・？

あなたが、女の子に託してもう危険信号を発しているのに、気付かなかったなんて、優しさ、お母さんの温かさを求めているのに、あなたは一人で頑張ってきた。

もう名古屋へ戻ることはできない。佳代ちゃん、あなた頼りになる人が傍にいてほしかったのね。

恋をすると女の子は  
綺麗になると言うけれど  
まるでガラス細工なの  
透き通って、キラキラ輝いている  
こわれやすくて  
傷つきやすい  
ああ臆病になってしまう  
あなたの声が聞きたい  
いつも一緒に居て欲しい  
だけど  
あなたにしつこいやつだと  
思われないかしら  
きらわれないかしら・・・？  
そんな不安が頭をよぎる  
自分の気持ちに素直になれない  
あなたを愛しすぎてしまったから

あなたは、心の中のあなたに没入している。寂しい時、辛い時、苦しい時に、詩は次から次へとほとぼり出てくるものね。楽しい時には、何の感情も持ち合わせていなかったのに、一人になると夕日の輝き、海の青さ、自然の偉大さに感動したりするものよね。

あなたは写真の中のポートレートに合わせ詩を作っていた。マネージャーから歌詞も作るように言われていると、いつか話したことがあった。

心ウキウキ  
明日はあの人に逢える日  
あの人と私  
ただあいさつをする程度の関係  
でも、顔を見るだけで  
胸がときめく  
ほんのひとこと言葉を交わすだけで  
心臓はドクンドクン  
とびだしそうな  
何を着て行こうか鏡の前で  
真夜中ひとりファッションショー  
ねえ、こんな気持ち  
生まれて初めてなの・・・  
あの子の特別な女の子に  
なりたくないなんて言ったら  
嘘になるけれど  
でもいいの  
今は  
想ってられるだけで  
し・あ・わ・せ 気分だから

写真集の中に、あなたは自分をぶつけていたのよね。寂しさ、もう限界にきているのに、寂しいけど頑張っていますから安心してくださいと。昔のあなたからは到底聞けない言葉。

岡田有希子から佐藤佳代に戻る瞬間、でもあなたにとっては、傍にいて優しく見守ってくれる人がいないってこと自体、不自然だったのね。

疲れ果て、ホテルの一室に戻った時も常に岡田有希子であり続けた。甘える場所がない。常にひとり、ひとりであることは、自由であること以上に精神的に内に籠ることだった。

夢や希望に満ち溢れ、自分の思いを全うし多くの新人賞をいただき、振り返った時、一日二十時間も働いているような気がした。

何かの雑誌に書いてあったよね。

「一日二十時間も働いているような気がする・・・」

あなたは、島流しにあったような心境であったかもしれないね。もう新人ではない。年ごとに新人歌手がでてくる。その中であって、常に瑞々しさを失ってはいけない。進歩すること。

それがあなたに課せられた義務だとしたら、もう逃げることはできない。ファンの人達を裏切ってはいけない。

疲れた体で、“家に電話をしてみよう。考えてみると夜中、時間が遅すぎる”と、あなたはつい遠慮してしまう。

そんな気苦労をあなたは持ち続けた。お母さんが病気になったのは、自分のせいではないかと常に悩み続けていたのね。泣きわめきどこかで発散しない限り、あなたは崩れてしまうだろう。

あなたにとって、お母さんは遠い存在になっていた。自分ひとりで生活していかなければならない。

人一倍、強がりなのに、人一倍淋しがりやでもあり、人一倍心の痛みがわかる娘でもあった。純粹に生きることは、家族のいない一人きりになっては難しいことだった。

“東京へ出て来た方がいいよ”という、あなたの言葉は、魂の叫びでもあったのかも知れない。

そんな悲痛な声を分ってやらなくて帰ってしまったお母さんは、本当に駄目な親ね。

雑誌社の人に、どうして幼稚園の時から中学までの絵が仕舞ってあったのかと聞かれた。

あなたが家に持ち帰っていたのが、自然に溜ってしまったというのも本当だし、もしかしたらあなたが言ったように、大物になるかもしれないという、思いも心の底にあったのも偽らざる気持ちである。

あなたが幼稚園の頃、家庭教育学級で子供は誰のものという質問があった。子供は、子供自身のもの、自分が生んだ子であっても、子供は子供自身の人生があると習った。

親馬鹿であるかもしれないが、あなたという子、十八年間育てられたこと誇りに思う。神に感謝しているわ。

あなたが亡くなって大勢の方達から励ましの手紙をいただいた。中にはお叱りの声もあった。  
“子供を放任し、親の責任も感じなければいけない・・・”  
と。

“ファンは、お宅だけのファンではない。はっきりしていただきたい。子供が迷惑をかけているのに、親まで迷惑をかけてると・・・”

何を言われても返す言葉はない。けれど、佳代が芸能界で頑張ってきたことだけは、分かって欲しい。

大勢の方達から、あなたの出演していた歌番組、ドラマなどビデオテープに取って送ってくださった。中には、あなたをマンガにし編集して送ってくださった方もある。

あなたがOFFに見た映画「ROCKY IV」（炎の友情）もテープに取り、君のテープだと送ってくださった方もある。

あなたが復活するマンガを大勢で書いて送ってくださった方もある。

また、自殺未遂され、元気になってお見舞に来てくださり、ご自分の仕事に情熱を持って働いている方もある。

五月の連休にも、大勢の方達がお墓参りに来てくださった。五月の月命日にお参りに行った時もファンの方達が来てくださって花で一ぱいだった。

北海道からもいらして、近くに泊られ連休の間、毎日お参りくださったと、成満寺の住職の奥さんから伺った。

遙かなる遠き島より送られし  
小さき鈴よすずらの花

三回忌に、去年の追悼コンサートのビデオテープも戴き拝見させていただいた。

ボーカルの人達が一人ずつ、あなたの歌を唄ってくださり、あなたの思い出写真を載せ、スター誕生の時からテープや、出演した歌番組や音楽祭、ドラマ、CMなどのテープを載せてくださった。

幻の曲となった「花のイメージ」をギター演奏をしてくださったり、会場に来てくださった皆と一緒に唄ってくださり、最後に

ユッコ  
いつまでも変わらないこの気持ち  
きみの代りはいないから  
僕達はこれからも君と  
歩いていこう

と、メッセージも添えて、上手に編集して、今年も追悼コンサートをしてくださると言われる。皆さん、お忙しいのに・・・。

あなたの部屋にあった、自由の女神を織り込んだブルー系のカーテン、オフホワイトのベッド、可愛らしいテーブルと椅子、テニスラケットの時計とボールの振り子、有希子のお部屋と書いたネームプレート、ピンクのバケツ、お母さんいつまでも忘れないわ。

あなたと過した十八年間。

あなたの声が聞きたければ、ビデオテープを再生すると、元気なあなたが陽気に唄い、可憐な姿を見せてくれる。

寂しくないと言ったら嘘になるけれど、文明の時代に生きていて本当によかったと思う。

ファンの皆さんありがとう。

“ユッコちゃんのお母様”“おばさん”と、学校であったこと、大学受験で頑張っていること、悩んでいることなど、相談してくれる。

自分で目指す大学に入りたいと浪人して、東京芸大、早稲田の法学部に入って弁護士になりたいと頑張っている子供達。

あなたは、亡くなったけれど、全国に娘や息子ができたようで、人生相談なんて大仰なことはできないけど、戸惑いながらも返事を書いている今日この頃。

あなたのポスターをまだ部屋に貼って、大学が受かるまで絶対はがさない“ユッコ大明神”に毎日お祈りをしているというファンの人もあるわ。

あなたの頑張りに、少しでも肖りたいと。

こんな私でも、皆が慕ってくださるなら、迷える子供達と一緒に歩いていこう。悩み、苦しみ、考えながら、一人の力は弱くても大勢で考えれば道も開かれるだろう。

遅くてもいい、一步一步進んでいこう明日に向かって！

ファンの皆さん、いつまでも忘れずにいてくださりありがとう。佳代の分まで長生きし、ご自分の道で大きく羽撃いてくださることを祈ります。

この広い空の下で。